

Sweet Rain 死神の精度

雨男・しかも死神。



金城 武 小西真奈美 富司純子
光石研 石田卓也 村上淳 奥田恵梨華 吹越満

原作：伊坂幸太郎「死神の精度」(文藝春秋刊)／監督：筧昌也／脚本：筧昌也、小林弘利／音楽：ゲイリー・芦屋

www.shinigaminoseido.jp

職業：死神。

業務：7日間人間を観察し“実行”（死）か
“見送り”（生かす）かを決めること。

名前：千葉

——死神の名前はなぜか町名や地名。

特徴：雨と白い手袋と黒い犬

——この死神は雨男

趣味：ミュージック鑑賞。



人間の最期をプロデュースする、 それが、死神の仕事です。



1985



2007



2028

千葉（金城武）が現れるのは、人間が不慮の死を迎える7日前。7日間の観察期間の後“実行＝死”か、“見送り＝生かす”かを判定するのが彼の仕事。仕事はさっさと済ませ、CDショップで“人類最大の発明品”として愛するミュージックを試聴するのが彼の最大の楽しみ。そんな彼の職業は……死神。

今日も雨の中、彼は待っていた。7日後に死を遂げることになっている新しいターゲットを——藤木一恵（小西真奈美）。27歳。とあるメーカーの苦情処理係。仕事を終え疲れ果てた彼女が会社から出てきた。さあ、仕事の始まりだ……

◆ 金城武、死神役に初挑戦 ——

死神なのにこわくない。死神なのにカッコいい。

人間界に現れるときはなぜかいつも雨という風変わりな死神、千葉を演じるのは本作が6年ぶりの日本映画出演となる国際俳優の金城武。一見クールだが、どこか天然という新しい死神像を、独特の超然とした佇まいと、ときにチャーミングに、ときにユーモラスに演じきる。物語は、過去・現在・近未来を舞台に展開。時代にあわせて変わっていく、死神、千葉のルックスも見所のひとつ！

◆ ついに映画化実現。伊坂ワールドの魅力全開！

原作は、若い世代を中心に今最も熱い支持を集める作家、伊坂幸太郎の「死神の精度」（文藝春秋刊）。断り続けてきた映画化のオファーを、金城武が主演ならばと快諾したという。死神の判定対象となる登場人物に、小西真奈美、富司純子。監督は、ファンタジーとユーモアにあふれる独特な作風で今、日本映画界が注目する鶴昌也。前作「美女缶」は、国内外の映画祭に招待され話題を呼んだ。本作は待望の初長編となる。

2008年、3月、観る者的心をSweetに揺さぶる、爽やかなエンターテインメント作品が、ここに誕生する！

エグゼクティブラブデューサー：奥田誠治、岡部秀司／プロデューサー：細部徹、神蔵光、滝田貴也／アソシエイトプロデューサー：小出真佐樹／ライアンプロデューサー：石田和哉、小島伸也
撮影：柴圭高亮／照明：時音友一郎／録音：浦木賀一／美術：清水博／装飾：秋田信次博／編集：伊藤伸行／特報：奥田悟／音響効果：阿浦晶彦／スタイリスト：伊賀大介
キャラクターデザイン：明石直也／スクリプター：鶴川慎子／助監督：吉田亮／制作担当：角田隆／企画・制作プロダクション：ROBOT／製作：Sweet Rain 死神の精度／製作委員会
【日本テレビ】：ROBOT、ワーナー・ブラザース映画、バッブ、映画テレビ、三井物産、ソニー・ミュージックエンタテインメント／配給：ワーナー・ブラザース映画



2008年3月ロードショー